

# 2023春渡航





# 2023春渡航





留学初日を迎えるまで、不安で仕方ありませんでしたが、参加して正解でした！



システム理工学部 数理科学科  
2年 倉島 菜実さん

## 参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否：  可 ・  不可

派遣先： タイ・KMUTT

以前、受け入れ型のGPBLに参加した際に、とても楽しかった記憶があったため、いつか渡航型のプログラムにも参加してみたいなとぼんやり考えていました。そんな時に国際部の校内放送による留学の案内を聴き、1番スケジュールにあっていたタイを選びました。

授業が9:00～16:00まであります。どの授業も英語を話すことが求められるため、英語を話すことに対する恥ずかしさや、抵抗を持っていても、そんな気持ちはすぐに取り払うことができます！また、タイの文化について学ぶ授業もあり、私はこの授業が一番好きでした。タイ語を学んだり、タイの伝統的なゲームをしたりなど、どれも新鮮で楽しかったです。私はタイ語は未経験（コップンカーしか分からない程度）でしたが、この授業をきっかけに、タイ語に興味を持ち、日本に帰ってからもタイ語の勉強を続けています。

留学中は、KMUTTの生徒の方々が毎晩のようにタイを案内してくれたため、毎日が新しい発見や驚きに溢れていました。英語力に不安はありましたが、恥ずかしがらずに「伝えたい！！」という気持ちを持って話すことで、コミュニケーションを取ることができました。

食事は比較的リーズナブルで、学食は1食150円もあれば十分な量を食えることができました。タイのグルメは「甘い、辛い、酸っぱい」で構成されているため、それらに苦手意識がある方はメニュー選びに苦戦するかもしれません。また、衛生面に関しては日本に比べると勇気が必要な点が多いですが、それらも海外渡航の醍醐味の1つかと思います！

何にも代え難い素晴らしい経験を積むことができました。私たちを暖かく迎え入れてくれ、毎日たくさんのおもてなしをしてくださったKMUTTの学生方に感謝の気持ちでいっぱいです。もし、留学に行こうか悩んでいる方がいるならば、私は自信を持ってKMUTTへの留学をお勧めします！

英語力よりも大切なものを学びました。

工学部 機械工学科 1年 中島 雛さん



### 参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否：  可 ・  不可

派遣先： タイ・KMUTT

初めての海外、さらに英語力に自信がなかったので、行く前はドキドキでした。言葉が通じなかったらどうしよう、ご飯が合わなかったらどうしよう、現地の人へのノリについていけなかったらどうしよう…と不安だらけでしたが時間のある大学生のうち何でも経験しておこうという精神で参加しました。

ルームメイトの日本人も知らない子で、現地に着いて初日は不安だらけでした。2日目から授業が始まり、慌ただしくしていると気が付いたころには、自分もタイの大学に通う学生の気分でした。慣れるまではあっという間です。

海外に行って一番身についたことは、度胸と伝える力だと思います。

実は、タイの街中の方々は全く英語が話せない人が多いです。もちろん私はタイ語は全く話せませんが、ジェスチャーだけでなんとか伝えたいことは伝わりました。

海外に行って、言語に対する考え方が変わりました。

日本との違いや異文化との交流、  
タイ人の温かさと優しさに触れられました。

工学部 機械工学科 3年 池田 月秀さん



## 参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否：  可 ・  不可

派遣先： タイ・KMUTT

また英語を聞いたり話したりしながら、日本を離れて異文化交流を行いたいと思ったため、このプログラムに参加しました。私自身、3年間オーストラリアに住んでいた、いわゆる帰国子女だったのですが、コロナ禍に直撃してしまったために今まで海外に出られず、英語を話す機会がなくなっていました。そして3年の終わりに海外渡航の制限が緩和されてきたため、学生のうちに海外へ行って感覚を取り戻すべく、語学研修を決意し、就活の合間を縫える日程で参加可能だったのが2週間のKMUTTの語学研修プログラムでした。

平日は午前午後3時間ずつ、KMUTTで英語だけでなく、プレゼン方法やタイの文化の授業を受けました。そのなかでも、修学旅行みたく実際にタイの寺院に行ってタイの文化を学ぶというプログラムも2日ありました。そして、放課後や休日はKMUTTの在学生であるタイ人バディ達と一緒にショッピングモールに行ったり、バスケを行ったり、夕食を共にしたりする機会が多かったので、タイ観光を満喫することができました。タイ人バディや先生達はとても優しく、フレンドリーで積極的にコミュニケーションをとってくれました。なので、人とコミュニケーションをとることに苦手意識があった自分でも仲良く接することができました。

この語学研修を通して、帰国子女としての英語の感覚を少し取り戻せたと感じ、文化や国の違いに触れて改めて世界の広さを思い知りました。最初はアジア圏ではなく、英語圏に行きたいと思っていましたが、実際にタイに行ってみると、タイならではの良さを知ることができ、今ではもう一度タイ観光に行きたいと考えています。また、タイにはセブン-イレブンや吉野家までもあり、日本文化が少し取り入れられているので、英語に自信がない方や海外に行くことに少し不安を覚える方はまずはタイでの語学研修をお勧めします。

語学留学の研修を通して英語学習のやる気が上がりました。

建築学部 建築学科 2年 浅見 洋介さん



## 参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可  不可

派遣先：タイ・KMUTT

英語の学習のきっかけとして外国に行って実際に英語を使ったコミュニケーションをしたいと考え、語学研修プログラムに参加しました。タイのKMUTTのプログラムは2週間と短いものですが、現地学生との交流が多く、タイの文化にも興味があったためこのプログラムを選択しました。

KMUTTに滞在中には英語の授業とプレゼンの授業とタイの文化に関する授業があり、午前中に3時間、午後に3時間の授業がありました。英語の授業では、同じ理系の学校ということでものづくりを通して、英語を学ぶことができました。授業後には、タイの学生にご飯や観光に連れて行ってもらい、タイの学生とも交流を深めることができました。休日には、タイの寺院や代表的な観光地に行くことができ、語学研修ではありましたが、タイを多く感じる機会がありました。タイの学生と一緒に行動することで観光地だけでなく、タイで生活している人が行くような店にも行くことができました。

このプログラムを通して、英語を学ぶモチベーションが上がりました。実際に英語を使ってコミュニケーションをすることは、英語を話せるようになるためには重要なことだと感じました。タイの学生とも仲良くなり、よりスムーズにコミュニケーションが取りたいと思うことで英語学習のモチベーションが上がりました。ただ英語を学習するだけでなく、活動やコミュニケーションを通して学ぶことができるのが、この語学研修の他とは違う所だと思います。



タイのBuddyとの日々が最高でした！  
国際交流って本当に楽しいです！！

システム学部 電子情報システム学科 1年  
森倫太郎さん

### 参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否：可・不可

派遣先：タイ・KMUTT

一番プログラム費用が安いということで、このプログラムを選んだのですが結果的に最高でした。何がそこまで楽しかった要因は大きく分けて2点あると思います。

一つは、「異文化交流」です。やはり、現地に行ってみないとわからないことがたくさんありました。例えば、タイの食事は辛いというイメージがあって心配だったのですが、辛くない美味しい料理がいっぱいありました。また、現地の方が気遣ってくれて辛さを控えてくれたりしてくれました。(本当に優しい人がたくさんいました。)また、現地の学生と朝からバスケットをしました。私と同じように英語が流暢に話せない方が多く、また体格がよくて見た目が少し怖い人もいました。しかし、片言の英語で協力し合い、励まし合ってとっても幸せな時間でした。あれほど、異文化交流をまたその楽しみを実感したことは今までなかったです。

二つ目は、「未知の環境での生活」です。私が日本で当間だったことが全く現地では違っていました。こんなの当たり前かと思うかもしれませんが、頭でわかっているにもかかわらず実際に体験するということは全く違うのだと気づかされました。例えば、交通手段。現地では、大抵は徒歩かバスでした。電車は日本でいうところの新幹線くらいのイメージです。道路は国があまりお金をかけていないので、ガタガタしていて、バスに乗っていると相当揺れます。振り落とされるのではと思うくらいに。また、食事の衛生面も全く違いました。屋台の氷はお腹を壊すだったり、野菜や魚の新鮮さもピンキリで食事をするのに精神的に一苦勞でした。ですが、生活を続けているうちにそれらに慣れてきてもう帰るころには都でした。そのように、未知の環境が身近になっていく感覚もまた、言葉では表せないほどの有意義な経験でした。



たった2週間でも、語学以外に多くのことを学ぶことができました。英語以外の言語も学べる点が英語圏以外の国の魅力です！

デザイン学部 デザイン学科  
4年 加藤 瑞恵さん

## 参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否：  可 ・  不可

派遣先： タイ・KMUTT

大学入学前から大学で一度は留学をしたいと考えていましたが、学費を自分で払っていたため金銭的に余裕がなかったこと、部活動をしてきたことから中々実現することができませんでした。最後の学費の支払いが済み卒業研究も終盤を迎えた頃、語学研修の追加募集のメールが届き、このタイミングを逃したら二度と留学することができず将来後悔するのではないかと考えるようになりました。幸いにも、給付型の留学奨学金制度があったため、それを活用することで留学したいという夢をついに実現することができました。タイを選択した理由は三つあります。一つ目は、費用が安かったからです。二つ目は、タイにいる友達に会えると思ったからです。高校生の頃に私の家にホームステイしていたタイ人の子に、いつかタイに行く約束をしていたので、その約束を果たす絶好の機会だと感じました。三つ目は、日本と比較して発展していない国に興味があったからです。その国の社会背景を学びたいと考えました。また高校生の頃にマレーシアで自然保護活動をした経験があり、同じアジアの国であるタイにはどのような環境問題があるのか学びたいと考えました。期間が二週間と非常に短かったため、一分一秒を無駄にせずに過ごそうと決め、留学中は出来る限りタイの学生と行動を共にしました。授業は芝浦の学生のみでしたが、朝食時や昼食時や放課後に積極的にタイの学生とコミュニケーションを取ることで信頼関係を深め、様々な話を聞くことができました。タイでは想像以上に多くのことを学ぶことができました。具体的には、戦争、環境問題、税金、SDGs、交通の5つについてです。

### ①戦争について

タイの学生が軍事訓練を受けていた時の動画を見せてくれました。高校生の頃に通常の授業を受けながら兵隊としての訓練を受けていたそうです。そして徴兵制度と、KMUTTのキャンパス内にある、戦争で兵隊として戦い亡くなった学生のためのモニュメントを紹介してくれました。また別日に美術館を訪れると、作品は戦争に関するものばかりでした。特に印象的だったのは、全ての絵のどこかに隠れミッキーがいたことです。夢の国のキャラクターが戦争に参加していることで、夢と現実の対比をしているように感じました。日本では戦争は過去の悲劇として認識していたため、タイではこんなにも身近に戦争が存在していることに大きなショックを受けました。

### ②環境問題について

タイでは月がぼやけて見えたが、それは雲ではなくPM2.5が原因だと知りました。タイの道路には常に多くの車が走っていましたが、そのほとんどは日本車でした。そしてディーゼル車がPM2.5の大きな原因の一つであることを知りました。このことから海外に製品を売る時は、その後のその国への影響に対しても責任を持たなければならないと感じました。

### ③税金について

一番仲良くしていたタイの学生が、出会ったときからよく咳き込んでいました。中々改善されなかったため病院に行くよう勧めましたが、金銭的問題で行くことができなと言われました。そしてタイには、費用が高くて医療技術も高い病院と、費用が安くて誤診の多い病院の二種類があると聞きました。日本では医療費は一副負担ですが、タイでは自己負担額が多く、富裕層以外はしっかりとした病院を受診できないため、自分で病気を予想し薬を買って治すのが一般的とのことでした。このことから日本の医療保険制度の充実さを実感し、改めて税金の使い方等についての知識と興味を持つことの重要性を実感しました。

### ④SDGsについて

近年日本ではいたるところでSDGsのマークを見かけるようになり、環境問題に対する取り組みが積極的ななされています。しかしタイでは、ほとんどそのような取り組みを見かけることはありませんでした。特に驚いたのは、プラスチックの大量消費や食品ロスです。レジ袋はほとんどのお店で配られ、使い捨てコーヒークップはホット用もプラスチック製で、500mlペットボトルの飲み物でさえわざわざプラスチックカップに移し替えて販売していました。また学食では、ご飯の量の選択肢がないため、毎回いくつもの大きなゴミ箱に食べ残された大量の食品が廃棄されていました。私は地球環境悪化防止のための取り組みが現在では世界中で行われていると考えていたため、このような光景に驚きと焦りを感じました。そして、環境問題に対する取り組みを自分自身が行っただけでなく、その必要性を他の人に伝え理解を得ることも大切だと学びました。

### ⑤交通について

タイの道路が自動車やバイクで溢れているという話は聞いたことがありましたが、実際に訪れると交通量の他に安全性の問題があることを知りました。実際に現地で車に乗っている時、その車が交通整備の方の指示を無視して突っ込んだため、危うく交通事故を経験しそうになりました。幸いにも目の前で急ブレーキをかけたギリギリ間に合いましたが、フロントガラスから見た相手の恐怖の表情は今でも忘れられません。またシートベルトが無かったため急ブレーキと同時に体が前に飛ばされ、自身の命の危険を感じました。タイにも自動車教習所はありますが、運転が下手でも減点などはされず簡単に免許取得ができそうです。また車が比較的安価なため、事故などで車が傷つくことに対する抵抗感も低いようでした。このことから私は、物の価格設定の重要性を学びました。価格には原価や利益だけではなく、その製品を使用するにあたっての責任を使用者に感じさせるための役割もあると感じました。

このプログラムでは平日は毎日3時間×2コマの授業がありますが、放課後やFree Dayは自由に行動することができるため、語学以外にも多くのことを学ぶことができます。新たなタイの友達もでき、今でも毎日LINEや電話をしています。そして永遠に理解することができないと思い込んでいたタイ語も、少し読み書きできるようになりました。もちろん英会話能力の向上も実感しています。留学前は、2週間という短い期間で得られるものがあるかと不安でしたが、留学中や帰国後に参加したことに対して後悔を感じたことはありません。

「やった後の後悔よりやらなかった時の後悔のほうが大きい」という言葉をよく聞きますが、本当にその通りだと思いました。現在はネット検索でほとんどのことを知ることができそうですが、例え全ての情報を収集したとしても現地ではしか得られないことが必ずあります。もし少しでも興味を持っていたら、多少無理をしてもプログラムに参加してほしいです。絶対に後悔はしないと思います。